

iPadが  
使える!

# スマート薬歴〈GooCo(グーコ)〉 導入事例②

## 〈GooCo(グーコ)〉の 導入効果とは?

森のシティ薬局の場合



ユーザー訪問ルポ | 森のシティ薬局 [千葉県船橋市]

### 的確な服薬・生活指導ができる 薬剤師が求められている時代に、 〈GooCo〉は欠かせない相棒です。

iPadが使える電子薬歴システムとして高い評価を受けている〈GooCo〉。  
紙のように持ち運べて、パソコンの良さを併せ持つこのシステムの導入で  
どんな効果が得られたか、今回は、千葉県船橋市の「森のシティ薬局」のルポをお届けします。

東京・神奈川・埼玉・千葉・山梨の1都4県に27の調剤薬局を展開するシーエスグループ。「シーエス」とは、Customer Satisfaction(顧客満足)のこと。常に患者の立場に立ち、患者の満足度向上を目指す企業グループの姿勢を表しています。

今回の訪問先「森のシティ薬局」は、同グループの一角を担う株式会社横須賀薬局(本社:千葉県習志野市)が経営する店舗の一つです。東武野田線新船橋駅から北東へ徒歩約10分の立地。今年5月、船橋総合病院の移転とともに、現在の場所に仮店舗を構えました。年内11月には、病院のすぐそばに再移転する予定。常勤と非常勤を合わせ常時14人前後の薬剤師が出勤しています。

電子薬歴システム〈GooCo〉の導入は昨年11月。以前は紙による薬歴管理でした。森のシティ薬局の鈴木康友薬局長によれば、11月は仮導入で、ここへ移転した5月に本格導入したとのこと。〈GooCo〉導入に踏み切った理由は、iPadが使える点が決手だったといえます。

「実は〈GooCo〉導入前から店内でiPadを活用していました。お薬の添付文書やFAQ、吸入指導用動画、〈筆談パッド〉のアプリなどを4台のiPadに入れ、服薬指導の際に使っていましたから、iPadというデバイスの便利さは実感していました。患者さんのお席まで行くことも多いので、iPadが使える〈GooCo〉以外の選択肢は考えられませんでしたね。現在は14台のiPadで、一人1台の環境がローコストで実現できました」

本格導入からまだ3カ月足らずですが、「さまざまな効果が見えはじめています」と鈴木薬局長。

「〈GooCo〉はiPadで写真を撮り、分包などの記録を残せるのがいいですね。文章や絵をかく手間が省け、他のスタッフにも正確な情報を伝えやすい。当店は毎日300人弱の患者さんが来局されます。紙だと薬歴を検索しづらかったのですが、〈GooCo〉ならボタン一つで分かります。薬剤師の作業時間と患者さんの待ち時間短縮にもつながります。患者さんの来局間隔やお薬の残量もすぐ確認できて、服薬指導などの

コミュニケーションの充実が図れ、副作用の発見もしやすくなると思います」

薬局長によると、〈GooCo〉導入で、紙の薬歴簿の保管スペースを大幅に縮減できたといいます。

「その分、患者の待合のスペースを広げることができました」  
これからの〈GooCo〉について、「服薬指導用の資料を即座に表示できる機能には大いに期待しています。アドヒアランスの向上や患者の満足度を高めるためにも欠かせません」と語ってくれました。

鈴木薬局長はキャリア11年のベテランです。人材育成の観点から今後の薬剤師像について伺いました。

「スタッフの半分ぐらいが5年未満の若手です。プラスアルファの能力を持った次世代の薬剤師の育成に努めています。高度な知識を持ち、相互作用や副作用、薬歴なども考慮した的確な服薬・生活指導ができる薬剤師が求められている時代ですから」と締めくくっていただきました。

2012年11月仮導入  
2013年5月本格導入

### 〈GooCo〉導入……………前

- 紙による薬歴管理だった
  - 薬歴の検索がしづらい
  - 紙の薬歴簿の保管用キャビネットを置くスペースが必要
  - 患者さんの来局間隔や薬の残量などが即座に把握しづらい
- 服薬指導の履歴を確認したり、関係資料を取り出すのに時間がかかった
  - 患者さんをお待たせしてしまう
  - 服薬指導の時間が削られる
- アナログの情報伝達
  - 手書きの文字や絵で伝える方法は、時間を要する
  - 他のスタッフに正確に伝わっているか不安が残る

### 〈GooCo〉導入……………後

- iPadが使える電子薬歴システムの導入
  - iPadで一人1台の環境となり持ち運びが便利。患者さんと対面しながらでも薬歴を検索・確認できる
  - 薬歴簿の保管用キャビネットのスペースを縮減でき、スペースの有効活用が可能
  - ボタン一つで患者さんの来局間隔や薬の残量などが即座に分かる
- 服薬指導の履歴がワンタッチですぐ分かり、資料もすぐ確認・提示できる
  - 患者さんをお待たせすることなく服薬指導
  - 患者さんと対面しながら資料を駆使して服薬指導が可能に
- 写真による情報伝達が簡単にできる
  - 薬の分包の記録など、iPadのカメラ機能で写真を〈GooCo〉に瞬時に登録可能
  - 記録した写真で説明できるため、他のスタッフでも分かりやすく伝えられて安心



**森のシティ薬局**  
株式会社横須賀薬局(本社:千葉県習志野市)が経営する3店舗のうちの一つ。千葉県船橋市に店舗を構え、19人の薬剤師を擁している。横須賀薬局は、東京・神奈川・埼玉・千葉・山梨の1都4県に27の調剤薬局を展開する企業グループ「シーエスグループ」の一角を担っている。ウェブサイト▶<http://www.cspg.co.jp/stores/morinocity.html>

シーエスグループ:1993年創業。構成企業は6社。シーエスグループ本所在地はさいたま市。資本金1,800万円、売上高116億円(2012年実績)。従業員数409人。「患者さま第一」を基本理念に、顧客満足(CS)の追求とともに、従業員満足(ES)に力を入れている。

photograph by Hideyuki Igarashi

[取材年月日:2013年7月23日]

森のシティ薬局 薬局長  
鈴木 康友 (すずき やすとも)

「〈GooCo〉を導入したことで、患者さんの来店間隔やお薬の残量もすぐ確認できて、服薬指導などのコミュニケーションの充実が図れ、副作用の発見もしやすくなると思います」